

レジデントカリキュラム　－放射線コース－

概 要

放射線部では、心疾患、血管疾患、脳神経疾患の画像診断に加え、先端機器をもちいた高度な画像診断法の開発や診断、治療技術・手法の臨床応用研究に取り組んでいる

2019年7月新病院への移転に伴い、320列Area detector CT1台および256列の最新鋭のCT2台の計3台および3 T MRI4台が新規導入された。また核医学検査においては半導体PET、SPECT CTなどが導入された。またカテーテル室、ハイブリッド手術室において肺動脈バルーン形成術、大動脈ステントグラフト内挿術、末梢血管疾患などのカテーテル治療を担当診療科と協調しながら行っている。また放射線専門医修練機関（修-176。2022年3月31日まで）であり、研修プログラムとして神戸大学、近畿大学の研修プログラムに属しており、大阪府、兵庫県における専門医取得のためのプログラム参加が可能である。また日本IVR学会の専門医修練機関（2019年12月31日まで）、日本核医学会専門医教育病院（2021年12月31日まで）の認定も受けている。

研修の内容

1) 研修内容の概要と修了時の目標

放射線部研修には、X線・MRコースと核医学コースの2つがあり、研修者は専攻したコースに比重をおいて研修する。3年の研修期間のうち2年で各専門分野の診療技術をマスターするとともに、3年目には臨床研究へ積極的に参画する。

《X線・MRコース》

- ・ 放射線診断学の基礎の修得*
- ・ 循環器の一般放射線診断法（単純X線；胸部・腹部・頭部など）の修得
- ・ 循環器のCT・MRI診断法（心・冠動脈・脳・肺・腎・大血管／末梢血管）の習得
- ・ 心臓血管カテーテル診断法とカテーテル治療技術の習得

《核医学コース》

- ・ 核医学の基礎の修得*
- ・ 循環器の核医学診断法（心・脳・肺・腎）の習得
- ・ 負荷RI検査（心筋、脳血流）の習得
- ・ PET研修

注）*：初めて放射線科の研修を受ける場合

2) 年次別カリキュラム（標準）

以下に 3 年での標準的な研修カリキュラムを示す。

【1 年次】

《X 線・MR コース》

- ・ 放射線診断学の基礎
- ・ 循環器疾患診療の一般的知識
- ・ 循環器の一般放射線診断法
- ・ 循環器 CT/MRI の基本的応用
- ・ カテーテル血管造影法およびインターベンションの基礎

《核医学コース》

- ・ 核医学の基礎
- ・ 循環器疾患診断法の一般的知識
- ・ 負荷心筋血流 SPECT、脳血流 SPECT

【2 年次】

《X 線・MR コース》

- ・ 三次元 CT/MRI 診断法
- ・ CT/MRI の高度応用（冠動脈アンジオグラフィ**、Dual-energy CT 診断**、MRI による心筋性状診断など）
- ・ 心血管カテーテルの造影術者・インターベンシオナリストとしての技術
- ・ 心血管カテーテル検査のデータ解析、造影像の分析、報告書作成
- ・ 臨床研究、論文作成、国内外学会報告

注) **: Dual-source CT による検査や解析

《核医学コース》

- ・ 核医学画像処理、定量化技術
- ・ PET 研修
- ・ 臨床研究、論文作成、国内外学会報告

【3 年次】

- ・ 各専門分野の診療技術修得と臨床研究の発展
- ・ 循環器疾患に対する各種画像診断法の先端的・統合的応用
- ・ 循環器疾患に対するカテーテル治療法の先端応用
- ・ 「循環器疾患の治療と核医学」をテーマとする臨床研究

経験手技と症例数

注) 症例数は週 1 回 (半日) ~ 数回検査担当する場合の 1 年での経験数

《X 線・MR コース》

- ・ 循環器 CT (心・冠動脈・大動脈・肺動脈・末梢動脈など) ; 約 500 例/年
- ・ 脳脊髄精密 CT (脳血管・頸動脈 CT アンジオグラフィなど) ; 約 100 例/年
- ・ 循環器 MRI (心・冠動脈・大動脈・頸動脈・末梢動脈など) ; 約 240 例/年
- ・ 脳脊髄 MRI (脳血管障害など); 約 400 例/年
- ・ カテーテル インターベンション (末梢動脈・腎動脈など) ; 約 120 例/年
- ・ 大動脈ステントグラフト治療 ; 約 120 例/年

《核医学コース》

- ・ 運動負荷 (薬剤負荷) 心筋血流 SPECT ; 約 500 例/年
- ・ 脳血流 SPECT ; 約 250 例/年
- ・ 心筋生化学イメージング ; 約 100 例/年
- ・ 心電図同期心筋 SPECT ; 約 100 例/年
- ・ 肺シンチ・ガリウムシンチ・PET 他 : 約 200 例/年

研修方法

- ・ スタッフ医師の指導のもとに、放射線部での上記の各種検査とカテーテル治療を担当し、画像の読影・解析からレポート作成までを行う。
- ・ カテーテル検査・治療などの侵襲的手技に加わる場合は、適応決定のミーティングや術前術後の回診などに参加する。
- ・ 各種カンファレンス等 (下記) に参加する。
- ・ 病棟での患者受持、および当直業務はなし。
- ・ X 線・MR コースと核医学コースの研修の配分やローテーションは、最短 3 ヶ月単位で適宜、変更する。

カンファレンス等の週間スケジュール

(定期)

- ・ 放射線部連絡・報告会 (毎週月曜日・木曜日・午後)
- ・ PET カンファレンス (毎週月曜日・午後)
- ・ 血管カンファレンス (毎週火曜日・午後)
- ・ RI 抄読会 (毎週火曜日・午後)
- ・ 放射線部勉強会 (毎週火曜日・午後)

- ・ 小児心臓カンファレンス（毎週木曜日・午後）
- ・ 心カテカンファレンス（毎週金曜日・午後）
- ・ RI 読影会（週日毎日・午後）
- ・ カテ前回診（週日毎日・午後）
（不定期）
- ・ リサーチミーティング（随時）
- ・ 放射線機器勉強会（随時）
- ・ 国内外専門家によるセンター内セミナー（随時）
- ・ スタッフ医師による講義（随時）

研修記録と修了評価

- ・ レジデントは、担当した検査・カテーテル治療の件数を、年度ごとに指導責任者に報告する。同時にその年度における研修内容等について、指導責任者との意見交換を行う。
- ・ 指導責任者は、各年度の達成状況を確認する。
- ・ 3年修了時には指導責任者が評価し、研修委員会において修了を判定する。